第５１回 燃料デブリ取り出し専門委員会 議事要旨

日　時：令和７年６月６日（金）　１３：１０～１４：４０
場　所：原子力損害賠償・廃炉等支援機構 Web 会議システム

１．東電エンジニアリング状況について

東京電力から、２号機試験的取り出しの状況、３号機Ｓ/Ｃ内滞留ガスパージの状況について説明した。

専門委員からの主な意見は以下のとおり。

（１）２号機試験的取り出しの状況について

○ テレスコ式装置で確認したＰＣＶ底部の燃料デブリの状況を踏まえ、今後のロボットアームによる燃料デブリ取り出しに向けて、実態に近い試料で検証することの考慮も重要である。

○ 燃料デブリの放射線防護上の管理に関してはユウロピウム等もある程度考慮した管理が必要と思われ、その点にも留意しながら安全に努めていくことが重要である。

○ グローブボックス作業について、汚染管理、設備の維持管理等の経験を蓄積し、東京電力内に展開していくことが重要である。

（２）３号機Ｓ/Ｃ内滞留ガスパージの状況について

○ 今後の残留ガスパージ期間が長くなる場合には、放射線分解による水素発生にも留意が必要である。

２．技術戦略プラン 2025 デブリパート要旨について

機構から、技術戦略プラン 2025 デブリパート要旨について説明した。

専門委員からの主な意見は以下のとおり。

○ 燃料デブリの試験的取り出しの成果を適切に記載していくことが重要である。

○ 燃料デブリの試験的取り出しや内部調査と大規模取り出しとの関連性について、大規模取り出しに必要な情報がどのような調査や分析によって得られるかを明確にしていくことが重要である。

○ 小規模取り出しから大規模取り出しへのプロセスの連続性が不明確であり、次の段階に進むための判断基準が示されていない点について、現時点で具体的な基準の明記は難しいとしても、各段階で必要な情報の明確化と判断基準の意識が重要であり、今後その考え方を反映すべきである。

○ 安全確保が最優先であることは当然としても、廃炉リスクの低減や合理性、最適化、現実的な実行可能性といったことを規制側等と協議しながら進めることが重要である。

○ 設備の再利用や連続性の確保が重要。その都度設備を作り直すと被ばく線量が増加する恐れがあるため、設備の有効活用や最適化の視点も反映すべきである。

以上